

1. 製品及び会社情報

製品名 DNAすいすい-W
製品コード DS-0009
会社名 株式会社リーゾ
住所 つくば市天久保2-9-2-B201
担当部署 研究部
電話番号 029-852-9351
FAX番号 029-852-9351
E-mail info@rizo.co.jp

作成日 2011年3月17日
改訂日

2. 危険有害性の要約

GHS分類 本品は4つの構成試薬（①DNAすいすい-W、②添加剤、③添加剤溶解液、④抽出補助剤）から成る製品で、④に含まれるSDSについて記載。

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分2
その他の項目は「分類対象外」、「分類できない」または「区分外」。

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分4
急性毒性（経皮） : 区分3
皮膚腐食性・刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） : 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） : 区分2(腎臓)
その他の項目は「分類対象外」、「分類できない」または「区分外」。

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分1
水生環境慢性有害性 : 区分外

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 飲み込むと有害
皮膚に接触すると有毒
皮膚刺激

強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、または、反復ばく露により腎臓の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性

注意書き

- | | |
|------|--|
| 安全対策 | ：使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
適切な保護手袋を着用すること。
必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。 |
| 救急措置 | ：皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所
に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 |
| 保管 | ：容器の蓋をしっかりと閉め、光の当たらない場所で冷蔵保
存すること。 |
| 廃棄 | ：内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の破棄
物処理業者に業務委託すること。 |

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成および成分情報

本品は4つの構成試薬（①DNAすいすい-W、②添加剤、③添加剤溶解液、④抽出補助剤）から成る製品である。

単一製品・混合物の区別

- ①DNAすいすい-W : 混合物（水溶液）
- ②添加剤 : 単一製品
- ③添加剤溶解液 : 混合物（水溶液）
- ④添加剤 : 混合物（水溶液）

	化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲*	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
				化審法	安衛法	
①DNAすいすい-W	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	1-5%	(HOCH ₂) ₃ CNH ₂	2-318		77-86-1
	ポリビニルピロリドン	<5%	(C ₆ H ₉ NO) _n	(6)-1007		9003-39-8
	trade secret	<20%	-	-		-
②添加剤	L-アスコルビン酸ナトリウム	>95%	C ₆ H ₇ NaO ₆	5-62	8-(4)-2 , 8-(4)-248	134-03-2
③添加剤溶解液	亜硫酸ナトリウム	<10%	Na ₂ SO ₃	1-502		7757-83-7
	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	1-2%	(HOCH ₂) ₃ CNH ₂	2-318		77-86-1
抽出補助剤添加剤	ドデシル硫酸ナトリウム	5-20%	C ₁₂ H ₂₅ O ₄ SN a	(2)-1679		151-21-3

*原則として1%以上含有する成分を記載

危険有害成分

- ①DNAすいすい-W : なし
- ②添加剤 : なし
- ③添加剤溶解液 : なし
- ④抽出補助剤添加剤 : ドデシル硫酸ナトリウム

4. 応急措置

①DNAすいすい-Wおよび②添加剤について

- 吸入した場合 : 速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付いた場合 : 触れた部分を多量の水で洗い流す。
- 目に入った場合 : 直ちに流水で15分間以上洗浄した後、必要に応じ医師の手当てを受ける。
- 誤飲した場合 : 多量の水または牛乳を飲ませる。無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受ける。

③添加剤溶解液について

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付いた場合 : 触れた部分を多量の水で洗い流す。異常がある場合医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに流水で15分間以上洗浄する。医師の手当てを受ける。
- 誤飲した場合 : 多量の水または牛乳を飲ませる。無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受ける。

④抽出補助剤について 吸入した場合	: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	: 多量の水と石鹸で洗うこと。直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：咽頭痛、咳。 皮膚：発赤。 眼：発赤、痛み。 経口摂取：吐き気、嘔吐、下痢。
最も重要な兆候及び症状	: 皮膚炎を引き起こすことがある。

5. 火災時の措置

①DNAすいすい-Wおよび②添加剤について

消火剤	: 水、粉末、泡、炭酸ガス等
火災時の特定危険有害性	: 特別な有害性はないと思われる。
消火方法	: 周辺火災の場合、容器を安全な場所へ移動する。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火を行なう者の保護	: 消火作業の際には必ず保護具を着用する。

③添加剤溶解液について

消火剤	: 水、粉末、泡、炭酸ガス等。
火災時の特定危険有害性	: 燃焼すると亜硫酸ガスを発生する。
消火方法	: 周辺火災の場合、容器を安全な場所へ移動する。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火を行なう者の保護	: 消火作業の際には呼吸用保護具、化学用保護衣を着用する。

消火剤	: 水、粉末、泡、炭酸ガス等
火災時の特定危険有害性	: 特別な有害性はないと思われる。
消火方法	: 周辺火災の場合、容器を安全な場所へ移動する。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火を行なう者の保護	: 消火作業の際には必ず保護具を着用する。

④抽出補助剤について

消火剤	: 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	: 棒状放水 : 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。激しく加熱すると燃焼する。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護

: 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

①DNAすいすい-Wについて

人体に対する注意事項

: 適切な防護具を着用する。作業区域の適切な換気を実
際にする。こぼれた場所は滑りやすい為、注意する。

環境に対する注意事項

: 製品が河川等に排出されないように注意する。

除去方法

: 漏洩したものは、ペーパータオル、ウエス等を使用して吸
収させ、出来るだけ空容器に回収する。

②添加剤について

人体に対する注意事項

: 適切な防護具を着用する。作業区域の適切な換気を実
際にする。

環境に対する注意事項

: 製品が河川等に排出されないように注意する。

除去方法

: 漏洩したものは、出来るだけ空容器に回収する。

③添加剤溶解液について

人体に対する注意事項

: 適切な防護具を着用する。作業区域の適切な換気を実
際にする。こぼれた場所は滑りやすい為、注意する。

環境に対する注意事項

: 製品が河川等に排出されないように注意する。

除去方法

: 漏洩したものは、ペーパータオル、ウエス、土砂等に吸
収させて出来るだけ空容器に回収する。未回収品は、ソーダ
灰または重炭酸ソーダを撒いてから大量の水で洗い流す。

④抽出補助剤について

人体に対する注意事項

: 全ての着火源を取り除く。直ちに、全ての方向に適切な距
離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止
する。密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

: 環境中に放出してはならない。

回収・中和

: 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

二次災害の防止策

: すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や
火炎の禁止）。

7. 取扱いおよび保管上の注意

①DNAすいすい-Wおよび②添加剤

取扱い

: 適切な保護具を着用し取り扱う。

保管

: 直射日光を避け、冷蔵保存（4℃）する。

開栓した容器で再び保管するときは、密栓をよく確かめる。

③添加剤溶解液

取扱い

: 適切な保護具を着用し取り扱う。強酸および酸化剤と急激
に混合しない。

保管

: 空気中で徐々に酸化され硫酸塩となるので、密閉した容器
で直射日光を避け、冷蔵保存（4℃）する。

開栓した容器で再び保管するときは、密栓をよく確かめる。

④抽出補助剤

取扱い

: 適切な保護具を着用し取り扱う。

保管

: 密閉した容器で直射日光を避け、室温保存（20-25℃）す
る。開栓した容器で再び保管するときは、密栓をよく確か
める。

8. 暴露防止および保護措置

管理濃度・許容濃度

	化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	CAS番号	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度	
					(日本産業衛生学会)	(ACGIH)
①DNAすいすい-W	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	1-2%	77-86-1	未設定	未設定	未設定
	ポリビニルピロリドン	<5%	9003-39-8	未設定	未設定	未設定
	trade secret	<20%	-	未設定	未設定	未設定
②添加剤	L-アスコルビン酸ナトリウム	>95%	134-03-2	未設定	未設定	未設定
③添加剤溶解液	亜硫酸ナトリウム	<10%	7757-83-7	5 ppm (as SO ₂)	未設定	TLV-TWA 5 mg/m ³
	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	1-2%	77-86-1	未設定	未設定	未設定
④抽出補助剤	ドデシル硫酸ナトリウム	5-20%	151-21-3	未設定	未設定	未設定

設備対策

：屋内作業での使用の場合は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明確に表示する。

保護具

①DNAすいすい-W

呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

：必要に応じて、適切な呼吸用保護具を着用する。
：適切な保護手袋を着用する。
：必要に応じて安全眼鏡或いは顔面保護具を着用する。
：必要に応じて個人用保護衣を使用する。

②添加剤

呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

：防塵マスクを着用する。
：適切な保護手袋を着用する。
：必要に応じて安全眼鏡或いは顔面保護具を着用する。
：必要に応じて個人用保護衣を使用する。

③添加剤溶解液

呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

：防毒マスク(SO₂用)を着用する。
：保護手袋、ゴム・プラスチック製手袋等を着用する。
：必要に応じて安全眼鏡或いは顔面保護具を着用する。
：長袖作業衣を着用する。

④抽出補助剤

呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

：防塵マスクを着用する。
：適切な保護手袋を着用する。
：必要に応じて安全眼鏡或いは顔面保護具を着用する。
：必要に応じて個人用保護衣を使用する。

9. 物理的および化学的性質

	外観	臭い	pH	融点/凝固点	初留点と沸点範囲	引火点	蒸発速度
①DNAすいすい-W	無色透明な液体。	ほぼ無臭	約7.0	データなし	データなし	引火性はない	データなし
②添加剤	白色～帯黄白色の粉末	ほぼ無臭	-	融点220℃(分解)	データなし	引火性はない	データなし
③添加剤溶解液	無色透明な液体	ほぼ無臭	約7.0	データなし	データなし	引火性はない	データなし
④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム単体について示す)	白色～帯黄白色の粉末	特徴臭	-	204℃ : ICSC (J) (2008)	データなし	>100℃	データなし

	燃焼又は爆発範囲	蒸気圧	比重	蒸気密度	溶解度	オクタノール/水分配係数	自然発火温度	分解速度
①DNAすいすい-W	不燃性	データなし	データなし	データなし	本品自体水溶液	データなし	自然発火しない	データなし
②添加剤	不燃性	データなし	データなし	データなし	水溶性。アルコールにわずかに溶ける。クロロホルム、エーテルに不溶。	データなし	自然発火しない	データなし
③添加剤溶解液	不燃性	データなし	データなし	データなし	本品自体水溶液	データなし	自然発火しない	データなし
④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム単体について示す)	不燃性	4.7E-13 mmHg(25℃)	0.4-0.6 g/cm ³	データなし	水 : 15g/100ml (20℃) : ICSC (J) (2008)	log P = 1.6 : ICSC (J) (2008)	248℃	データなし

10. 安定性および反応性

	化学的安定性	危険有害反応性の可能性	避けるべき条件	混触危険物質	危険有害性のある分解生成物
①DNAすいすい-W	安定である。	-	-	-	-
②添加剤	常温、常圧では安定。	-	強酸化剤から離して保管する。	酸化性物質との混触不可。	一酸化炭素、二酸化炭素
③添加剤溶解液	常温、常圧では安定。	強い還元性を持ち、自身は酸化されて硫酸ナトリウムとなる。	強酸類との接触を避ける。	強酸類と接触すると有害な亜硫酸ガスを発生する。	硫黄酸化物

④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム 単体について示す)	法規制に従った 保管及び取扱に おいては安定と 考えられる	燃焼すると分解 し、一酸化炭素 やイオウ酸化物 を含む有毒で腐 食性のガスを生 じる。強酸化剤 や強酸と反応す る。	日光、熱、 強酸化剤	酸化性物質 との混触不 可	一酸化炭素やイ オウ酸化物を含 む有毒で腐食性 のガス
-------------------------------------	--	---	---------------	---------------------	--------------------------------------

1 1. 有害性情報

①DNAすいすい-W

急性毒性	
(経口)	: データなし。
(経皮)	: データなし。
(吸入)	: データなし。
皮膚腐食性	: データなし。
刺激性 (皮膚、眼)	: 皮膚や眼の粘膜を刺激する可能性がある。
慢性毒性	: データなし。
発がん性	: データなし。
生殖細胞変異原性	: データなし。
生殖毒性	: データなし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: データなし。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: データなし。
吸引性呼吸器有害性	: データなし。

②添加剤

急性毒性	
(経口)	: データなし。
(経皮)	: データなし。
(吸入)	: データなし。
皮膚腐食性	: データなし。
刺激性 (皮膚、眼)	: 皮膚や眼の粘膜を刺激する可能性がある。
慢性毒性	: データなし。
発がん性	: データなし。
生殖細胞変異原性	: データなし。
生殖毒性	: データなし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: データなし。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: データなし。
吸引性呼吸器有害性	: データなし。

③添加剤溶解液 {亜硫酸ナトリウム (無水) について記載}

急性毒性	
(経口)	: ヒト 5-6gで激しい下痢、腹痛。 : ラット LD ₅₀ 3560 mg/Kg : マウス LD ₅₀ 820 mg/Kg
(経皮)	: データなし。
(吸入)	: データなし。 : 亜硫酸塩は生体内で酸化され硫酸塩となる。亜硫酸を遊離 するため消化管粘膜を刺激しやすい。ヒトでは4gの内服で 中毒症状があらわれることがある。5.8gでは胃腸の激しい 刺激症状を起こす。SO ₂ として250mg(3.5mg/Kg)以下で 嘔吐する。 静脈注射; ラットLD ₅₀ 115mg/Kg

マウスLD₅₀ 130mg/Kg

皮膚腐食性	: データなし。
刺激性 (皮膚、眼)	: 皮膚や眼の粘膜に対して軽度の刺激性がある。
慢性毒性	: データなし。
発がん性	: データなし。
生殖細胞変異原性	: データなし。
生殖毒性	: データなし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: データなし。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: データなし。
吸引性呼吸器有害性	: データなし。

④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム単体について示す)

急性毒性 (経口)	: ラットを用いた経口投与試験のLD50値1,200 mg/kg(SIDS(1991))、2,730 mg/kg (EHC 169(1996))のうち、低い値1,200 mg/kgから区分4とした。
(経皮)	: ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値 約600 mg/kg (SIDS(1991))、580 mg/kg (EHC 169(1996))から、区分3とした。
(吸入)	: データなし。
皮膚腐食性	: ウサギを用いた皮膚刺激性・腐食性試験(OECD TG 404、GLP)において、PII: 6.0, 6.78から「highly irritating」(ECETOC TR66(1995)、IUCLID(2000))と記述されているが、回復性に関する記述がないので区分2とした。
刺激性 (眼)	: ウサギを用いた眼刺激性・腐食性試験(OECD TG 405、GLP)において、「Modified Maximum Average Scores: 16.00; moderately irritating、59.17; irritating、60.50; irritating」(ECETOC TR48(1992)、IUCLID(2000))と記述されているので区分2とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 呼吸器感作性: データがないので分類できない。 皮膚感作性: モルモットを用いたMaximization 試験で皮膚感作性を示さない(ECETOC TR77(1999))と記述されているので区分外とした。
生殖細胞変異原性	: 生殖細胞in vivo変異原性試験の小核試験で陰性(SIDS(1991)、EHC 169(1996))と記述されているので区分外とした。
発がん性	: 主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データが不十分なので分類できない。なお、「長期試験は行われているが、発がん性評価には不十分である。動物に混餌投与した試験では、アルキルサルフェイトの発がん性の証拠は得られなかった」(EHC 169(1996))旨の記述がある。
生殖毒性	: EHC 169(1996)に記載の一次文献(東京衛研年報(1976))によると、「マウス皮膚塗布による催奇形性試験において、母動物の体重増加が抑制された用量で、受胎率の低下、胎仔重量が低下し、発育遅延を認めた。口蓋裂や骨化遅延もみられるが有意なものではなく、本実験の口蓋裂の発生や着床の問題も含め、経口投与での試験の必要性がある」旨の記述があり、データ不足から分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: マウス、ウサギ、モルモットでのエアロゾルばく露で気道刺激性がみられる(IUCLID(2000))、短期ばく露で気道刺激性がみられる(ICSC(1997))との記述から区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: ラットを用いた2週間混餌投与試験において「肝臓重量増加がみられたラットの病理組織検査で、肝細胞がわずかに腫脹し

分裂肝細胞数が増加していた。これらは本物質の投与に順応したものと考えられる。また、腎尿細管の上皮細胞の空胞変性、腎糸球体の萎縮がみられた」(EHC 169(1996))旨の記述がある。これらの症状は区分2のガイダンス値の範囲内で見られているが、肝臓における症状は、本物質の投与による有害影響とは考えられないので採用せず、区分2(腎臓)とした。なお、ウサギを用いた3ヶ月間経皮投与試験では「用量依存性の皮膚刺激性がみられた」(EHC 169(1996))旨のみ記述されている。

吸引性呼吸器有害性

: データがないので分類できない。

1 2. 環境影響情報

	生態毒性	残留性/分解性	生物蓄積性	土壌中の移動度
①DNAすいすい-W	データなし	データなし	データなし	データなし
②添加剤	データなし	データなし	データなし	データなし
③添加剤溶解液	魚毒性：カダヤシ TLm 2600 ppm/24hr	データなし	データなし	データなし
④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム単体について示す)	甲殻類(アメリカワサ)の96時間LC50=0.72mg/L (SIDS, 1997)から区分1とした。	急速分解性がある (SIDS, 1997)、と推測されることから、区分外とした。	生物蓄積性がない (LogKow=1.6, PHYSPROP)と推測されることから、区分外とした。	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

①DNAすいすい-W

: 十分な可燃性溶剤、重油等の燃料と共にアフターバーナー、スクラバー等を具備した焼却炉でできるだけ高温で少量ずつ焼却し、排ガスは中和処理する。または許可を得た産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

②添加剤

: 可燃性有機溶剤に混合/溶解後、スクラバーおよびアフターバーナーを具備した焼却炉で焼却処分する。

③添加剤溶解液

: 酸化剤で処理後、中和し廃棄する。許可を得た産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

④抽出補助剤

: 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器・包装

①DNAすいすい-W

: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

②添加剤

: 多量の水に溶解した後、中和して洗い流す。

③添加剤溶解液

: 空容器を廃棄する場合、内容物を除去した後に処分する。

④抽出補助剤

: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

	国連番号	品名	国連分類	容器等級	海洋汚染物質	輸送の特定の安全対策及び条件
①DNAすいすい-W	なし	なし	なし	情報なし	非該当	容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
②添加剤	なし	なし	なし	情報なし	非該当	容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
③添加剤溶解液	なし	なし	なし	情報なし	非該当	強酸類、酸化剤との混載を避ける。容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム単体について示す)	なし	なし	なし	情報なし	非該当	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

	化学物質管理促進法 (P R T R法)	労働安全衛生法	毒物及び劇物取締法	消防法	海洋汚染防止法	その他
①DNAすいすい-W	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	
②添加剤	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	
③添加剤溶解液	非該当	非該当	非該当	非該当	亜硫酸ナトリウム：有害液体物質 (Y類物質) (施行令別表第1)	食品衛生法施行規則 (食品添加物公定書収載)
④抽出補助剤 (ドデシル硫酸ナトリウム単体について示す)	新規指定化学物質 (第1種) (平成20年11月21日公布、平成21年10月1日施行、P R T R：平成22年4月1日把握開始、平成23年4月1日届出開始) ドデシル硫酸ナトリウム (政令番号：1-275)	非該当	非該当	非該当	非該当	

16. その他の情報

参考・引用文献等

和光純薬工業株式会社、試薬MSDS検索WEBデータ：

<http://www.wako-chem.co.jp/siyaku/msds.htm>

独立行政法人製品評価技術基盤機構 化学物質総合検索システム：

http://www.safe.nite.go.jp/japan/Haz_start.html

安全衛生情報センター 通知対象物質及び通知対象外物質のモデルMSDS情報検索：

http://www.jaish.gr.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx

独立行政法人製品評価技術基盤機構 MSDS記載内容：<http://www.prtr.nite.go.jp/msds/msds.html>

中央労働災害防止協会、「GHS対応による混合物（化学物質）のMSDS作成手法の研修テキスト（改訂

版）」：http://www.jisha.or.jp/chemicals/ghsmsds/ghs_msds.html

その他、各試薬メーカーが提供するMSDS情報

記載内容は、現時点で入手できるデータおよび資料に基づいて作成しており、新しい知見によって改訂されることがあります。記載内容の内、含有量、物理化学的性質などの値は保証値ではありません。また、注意事項等については通常取り扱いを対象としたものですので、特殊な取り扱いについては、この点のご配慮をお願いします。
